

参考資料 1

いいな 3 村調整会議資料

- 第1回 いいな 3 村調整会議
(平成 27 年 9 月 29 日 11:00~12:30)
- 第2回 いいな 3 村調整会議
(平成 28 年 1 月 22 日 15:00~17:30)
- 第3回 いいな 3 村調整会議
(平成 28 年 3 月 8 日 9:00~12:00)

第 1 回
いいな 3 村調整会議
資料

平成 27 年度 農山漁村交流拠点整備事業
いいな 3 村 会議（第 1 回）

平成 27 年 9 月 29 日（火）

11 : 00 ~ 12 : 30

会場 運天港フェリーターミナル1階

会 次 第

1 開 会（挨 拶）

2 事業内容とスケジュール （資料 1、2）

3 具体的な取組内容について （資料 3）

- ・モニターツアーとコミュニティビジネス
- ・勉強会（体験・コミュニティビジネス）の開催について
- ・連携組織の立ち上げ活動について

4 今後の予定

5 閉 会

（以 上）

平成27年度 農山漁村交流拠点整備事業

いいな3村会議(第1回)出席者名簿

(敬称略)

番号	村	班名	役職	氏名	備考
1	伊是名村	伊是名村 農林水産課	主 事	名 嘉 尚	
2		伊是名村 商工観光課	課長補佐	東 江 隆 二	
3		いげな島 観光協会	事務局長	上 間 美 卓	
4	伊平屋村	伊平屋村 総合推進室	主 事	上 原 拓 海	
5		〃	観光コーディネーター	叶 雅 美	
6		伊平屋島 観光協会	事務局長	金 城 洋 子	
7	今帰仁村	今帰仁村 観光協会	事務局長	又 吉 演	
8		〃		島 袋 一 也	
9	沖縄県	村づくり計画 課	農村活性化推進班 長	大 嶺 保 和	
10		村づくり計画 課	主任技師	崎 間 賀 子	
11	事務局	OC		小 川 哲 平	
12		OC		大 城 美 由 紀	
13		A R J		中 村 圭 一 郎	
14		A R J		大 島 重 久	

平成 27 年度農山漁村交流拠点整備委託業務

実施計画書 (※いいな部分抜粋)

平成 27 年 8 月

(株)オリエンタルコンサルタンツ・(株)アンカーリングジャパン 共同企業体

1. 業務の実施方針

(1) 現状と課題

① 沖縄県における農林水産業

- わが国の経済・社会の国際化が進展するなかで、沖縄県における農林水産業・農山漁村の取り巻く環境は農林水産物の輸入増加や農林水産物価の低迷、農林漁業従事者の減少・高齢化の進行、遊休農地の顕在化など、多くの課題を抱えている。

② グリーン・ツーリズムへの取り組み

- このようななか、本県では、都市と農山漁村に住む人々が農林水産業を通じて交流を行うグリーン・ツーリズムの推進に期待が寄せられている。
- グリーン・ツーリズムは、沖縄らしい風景・景観の維持や県土の保全、伝統文化の継承や地域農林水産業の維持的発展社会の維持など多面的機能を有する農山漁村の活性化に有効であり、農林水産業の維持的発展および地域経済の発展のためにも重要である。
- 今後も、担い手の減少が継続するなか、修学旅行などの規模の大きな需要への対応や、地域が一体となってブランド価値を発信しつつ受入れを行っていくためには、取りまとめを行う中間組織や、これらが核となり地域間を結ぶ連携組織の必要性が高まっている。

(2) 過年度事業における成果と今後の問題意識

- このような背景のもと、平成 24 年度から農山漁村の交流拠点整備の取り組みが進められてきた。特に、これまでの取り組みでは本島モデルとして「やんばる3村（ヤンパク）」および離島モデルとして「いいな3村」が実践モデルとして拠点整備の推進が図られてきた。
- 本年度、本事業が最終年度を迎えるなか、各モデル地域で課題となっている事項の解決と、他地域への展開方策の立案が求められている。

<これまでの取り組みを踏まえた各モデルの本年度の問題意識>

項目	モデル毎の問題意識
ヤンパク	○窓口の一元化などの連携をより実効的なものにしていくためには、地域の実践者レベルの連携強化が不可欠であり、現場レベルの連携を進める施策が求められている。 ○上記の施策を進めるにあたって中心となるブランドコンセプトを再整理し、地域内に浸透させていく必要がある。 ○将来的な窓口の完全な一元化の実現。
いいな3村	○各村において、取組のオーソライズを進めるとともに、事務局体制の確立、これまで検討してきた取り組み（体験交流プログラム、コミュニティビジネス）の実践・検証レベルへの具体化が望まれる。 ○持続的な組織体制づくり。

(3) 実施方針

○いいな3村

- 3村の連携拠点事務局の核となる人材の育成と、実践を両立しつつ取り組みの推進を図るべく、一部、いいな3村側に再委託を行いながら取組の実証を行う。
 - 地域主体による実証を通じて、取り組みの推進を図る。
 - 取組課題や解決方法などの取組経緯を検証し、地域ブランドを活用した地域補完型の“離島型”の連携モデルとしての知見を収集する。

○ヤンパク

- 現場レベルの連携強化を図るため、ヤンパクのブランドコンセプトを改めて定め、地域内への発信を行うとともに、交流連携を図るための仕掛けづくりを行う。
 - ボトムアップによる連携強化に組み込み、さらなる連携発展を狙う。
 - ブランドコンセプトづくりや地域内連携強化による拠点施策の推進について、効果や課題、今後の改善策について、今後の発展や他地域での展開の視点から検証する。

○全 般

- 他地域にとっても参考となり、実施のポイントや課題解決の理解促進につながるよう、拠点整備の取り組みを事例集として整理する。
 - これまでの拠点整備の取り組みに対して、段階分けをして取組を整理。他地域における地域特性に応じた活用や、取組の難所や解決策が理解できるよう配慮。

2. 実施方法

2.1 いいな3村・ヤンパクにおける広域交流拠点体制の活動実証

- 「離島モデル」・「本島モデル」について広域交流拠点体制の活動についての実証を行うとともに、今後の取組の向上、体制の確立を図る。
- 地域が一体となったブランドの発信や、荒天時の補完体制構築、地域内連携強化といった広域連携施策の有効性について評価、検証を行い展開上の留意点について分析する。

(1) 体験交流プログラムの実証（いいな3村）

1) 体験交流プログラムの品質向上にかかる勉強会

①基本的な考え方

- ・「体験交流プログラム」のモニターツアーの実施に向けて、品質向上やリスク対策についての勉強会を開催する。
- ・3村で地域ブランドを形成しつつ、地域間連携のなかで単村での受入では実現できなかった“参加者にとっての価値”を提供するものとし、この点を強化する取組とする。
- ・現時点で、推進が想定される商品は、昨年度いいな3村において確立した“家族の学校”という商品コンセプトを踏まえ、地域の資源と想定顧客のニーズを踏まえた、家族での民泊体験を中心とした稲刈り体験プログラムの実施を想定する。

②勉強会の概要

- ・過年度確立した地域ブランドのコンセプトを大切にしつつ、品質が高く利用者に喜ばれる体験交流プログラムにするべく実施関係者を中心とした勉強会を開催する。
- ・「モニターツアー期間（11月21日（土）～11月23日（月）（仮））」を挟んだ前後2回を予定する。
- ・また、体験交流関連商品に対する知見や販売実績を有する旅行代理店担当者を招聘し、勉強会にアドバイザーとして関わっていただく。
- ・また、後述の「モニターツアー」の実施結果に対する分析及び検証を行い、課題整理を行うとともに地域単体では実現できない連携による他地域との差別化につながるコンテンツ作成を目指し、評価方法についての習得を図る。

<各回の勉強会の概要>

	第1回 勉強会	第2回 勉強会（振り返り会）
実施テーマ	○地域ブランドの価値を活かした体験商品づくりと付加価値化のポイント ○実施にあたってのリスク対策（チェックポイントの確認）	○モニターツアーの振り返り ○商品の改良のポイントについて
開催時期	○9月下旬	○12月中旬
場 所	○伊是名村内	○伊平屋村内
講師	○地域への誘客や旅行商品化の視点から知見を有する旅行事業者にアドバイスをいただく。（次頁に案を記載） ○その他、これまでも本事業への協力実績があり、広域連携施策に理解の深い、農山漁村活性化の取組に実績のある「まちむら交流きこう」花垣次長、体験学習指導者として実績のある「がじゅまる自然学校」の小林事務局長等の招聘についても検討する。	

<アドバイザー（案）>

氏名：青木淑浩（あおき よしひろ）
 近畿日本ツーリスト株式会社 地域誘客事業部 事業部長
 KNT-CT ホールディングス株式会社 地域事業部 事業部長
 株式会社ティー・ゲート 社外取締役



【プロフィール】

- ・2012年10月より地域誘客事業部事業部長
- ・地域振興、地域誘客事業のアドバイザー業務、地域独自イベントの仕掛け 等を実施。

<勉強会のイメージ>



勉強会（モニター体験の振り返り会）
 のイメージ
 （H26年度やんばる3村の実績）

<参考：民泊や体験プログラムの取り組み向上に向けた品質基準の例>

	項目	規定事項
民泊	受け入れ態勢の整備	○地域資源を活かした児童向けの“体験プログラム”を提供できること ○児童に体験等の指導を行える“指導者”がいること ○体験や宿泊に使用できる“施設・設備”を手配できること ○小学校1学年規模の児童を“1週間（4泊5日）程度”で受け入れられること ○児童にとって十分な“安全衛生管理”が行える体制を整えていること ○病院・診療所、消防、警察、行政等との“緊急連絡体制”を構築していること ○ふるさと生活体験の受入時における“損害賠償保険”に加入していること等
	所管行政の基準	○所管行政の基準を満たしていること
農山漁村体験プログラム	安心	○申し込みやキャンセル方法、プログラム内容などが参加者にわかりやすく提示されているか ○プログラム内のリスクがわかりやすく表示されているか ○プログラム実施における催行基準（人数等）を設けているか
	安全	○プログラム実施時の安全対策が措置されているか ○案内するスタッフが緊急時のトレーニングを受けているか ○プログラム実施における催行基準（天候・海況等）を設けているか
	プログラムの質	○五感を使った体験型・参加型のプログラムであるか ○地域資源を活かした環境共生型のプログラムであるか ○案内するスタッフにインタープリテーション等のガイドに関する知識があるか ○参加者に対して地域や自然環境への配慮を促しているか ○地域内の人・物・場所を積極的に活用しているか

※民泊は「ふるさと生活体験受入地域ガイドブック（まちむら交流きこう）」
 体験プログラムは「沖縄県体験型観光推進協議会」の推奨制度をもとに記載

2) モニターツアーの計画・実施（再委託を行う）

- ・過年度計画した体験交流プログラムを基本にモニターツアーを計画・実施する。
- ・3村連携による地域側の活動のきっかけとなる費用の確保と3村の状況に精通した人材（コーディネーター）の育成を目的として、いいな3村側に再委託を行う。
- ・具体的には、今帰仁村観光協会が中心となり伊平屋村側、伊是名村側と意見交換を行いつつ連携型のモニターツアーのコーディネートを行う。
- ・当社側は、モニターツアー当日は立会を行い、実施後にフィードバックを行う。
- ・具体的には、「第1回勉強会」で定めた付加価値づけやリスク対応などのチェックポイントについて、3村連携による取組価値の向上（受入品質担保やリスク対応体制などのブランド価値向上）の観点から「第2回勉強会」の場においてフィードバックを行う。

<モニターツアーの実施イメージ>



(2) 3村連携体制によるコミュニティビジネスの実証（いいな3村）

1) 販売戦略勉強会

①基本的な考え方

- ・3村連携型のコミュニティ・ビジネスの販売戦略に関する勉強会を実施する。
- ・現時点で、推進が想定される商品は「いいなブレンド泡盛」、「いいなおむすび」が挙げられる。一方で、現時点で商品は構想段階であり、商品開発から販売方法までの具体化を図る。（今後の他地域への展開を意識して商品販売までの道筋づくりと、プロセスの振り返り（地域内共有）を行うものとする）

<想定するビジネス>

	いいなブレンド泡盛	いいなおむすび
ビジネスの概要	・ブレンド泡盛の商品化、販売	・3村特製のおむすびの商品化、販売
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・3村にある酒造所による、ブレンド泡盛の商品化。 ・3村それぞれのミニボトルと、ブレンド済みボトルを併用 ・ブレンドレシピの提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・米どころである3村の米や炊き方へのこだわりの演出 ・おむすびに入れる具材の選定 ・顧客目線でのブランドの発信。

②勉強会の概要

- ・具体的な推進は、いいな3村側への再委託によって推進するものの、過年度確立した地域ブランドのコンセプトを大切にしつつ、これらの検討の方向付けを行い円滑なビジネス推進に結びつくよう勉強会を開催する。
- ・特に、3村の連携において留意すべき観点について着目し、勉強会のテーマに取り入れる。
- ・後述の「販売戦略会議（9月～1月に実施を予定）」を挟んだ前後2回を予定する。
- ・参加者は、「いいな3村」の拠点整備検討メンバーと、コミュニティ・ビジネスの実践者の出席を想定する。

<各回の勉強会の概要>

	第1回 勉強会	第2回 勉強会
実施テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○検討の推進手順について ○商品の付加価値化（3村連携ブランドの活かし方）について 	<ul style="list-style-type: none"> ○開発手順の振り返り（ノウハウの共有） ○商品の改良のポイントについて
開催時期	○9月下旬	○10月下旬
場 所	○今帰仁村運天港ターミナル	○伊平屋村、伊是名村のいずれか
講師	<ul style="list-style-type: none"> ○食の商品開発・販売展開の分野で実績のある専門家を招聘し、商品化・販売展開に手順に係るアドバイスを受ける。 ○その他、商品の付加価値化を目指し、県内の泡盛マイスターやお米マイスター等の招聘についても検討する。 	

<想定される専門家（例）>

石渡 進一 グリシヤス(株) 商品開発部長

食品流通業界に20年従事し、地域活性化・商品開発アドバイザーとして、消費者目線でのニーズを踏まえた「食」商品開発に、全国各地で取組む。地域素材を活用したレシピの開発から生産体制の構築まで幅広く対応が可能。

<検討手順の例（おむすびの例）>

- ・開発する「おむすび」の案を多数考える
- ・いつ どこで 誰が 食べるのかを決める（想定する）
- ・想定内容をふまえ、食材の特色をストーリー化する
- ・商品レシピを開発～決定する
- ・製造場所、製造者を決める
- ・販売場所を決定する

3村それぞれの特徴的な食材の採用（おむすびの具材）、体験プログラム内での効果的提供方法、食材の村に伝わるいわれや食習慣へのこだわりの活用など3村のコンセプトの価値向上についての考え方を盛り込む。

<勉強会のイメージ>



コミュニティビジネス勉強会の様子
(H26年度やんばる3村の実績)

2) 販売戦略会議の開催【再委託を実施】

- ・3村のグリーン・ツーリズム関係者が販売戦略について理解し、コミュニティ・ビジネスを具体的に推進するための場として、「販売戦略会議」を開催する。
- ・当社側から、いいな3村側への再委託を行い、会議運営は委任する。
- ・現時点において販売戦略の検討の対象は、「おむすび」及び「いいなブレンド泡盛」とすることを想定する。
- ・会議における検討を通じて、**モニター調査に耐えうる試作品を作成し、販売戦略の具体化を図る。**
- ・検討結果については当社側にて報告を受け確認を行う。特に**3村間の連携に関わる課題やそれに対する解決方法**については、記録し今後の広域連携の参考にするため**事例集に反映する。**

3) 試作品の実証【再委託を実施】

- ・販売戦略会議を通じて、試作品・パッケージ作成、モニター調査を行う。
- ・当社側から、いいな3村側への再委託を行い、制作の進行などは委任する。
- ・試作品の制作、消費者モニターによる評価聴取をしていただき、計画・実施・結果についてとりまとめ受注者側に提出していただく。
- ・現時点においては「いいなまつり」（11月上旬）や、「離島フェア」（11月中旬）や那覇市の居酒屋と言った場を活用した試食・試飲モニター調査などを想定する。

(3) 広域連携組織の継続・発展に対する活動の促進（いいな3村）

- ・今後、継続的・発展的な広域連携が可能なよう「いいな3村」の連携組織（いいな連携ネットワーク）の設立のサポートを行う。
- ・具体的には、本事業全般の推進管理を行うとともに、協議会の会則の作成などの支援を行う。
- ・また、今後の長期的な発展性を見据えた組織や人材のあり方についても検討を行う。
 - 現在「ひと・まち・しとご創生本部」から方針出されている日本版 DMO※（destination marketing/management organization）を目指した組織の発展についても視野に入れた検討を行う。
 - ※地域資源・地域ブランドを活用し、地域横断、分野横断での連携のもと、自らの採算のもと地域のマネジメント・マーケティングを行う組織。
- ・3村の行政および観光協会等が参加する調整会議を3回開催する。

<出席者（検討のコアメンバー）>

伊平屋村	伊平屋村 総合推進室、農林水産課 伊平屋村観光推進委員会
伊是名村	伊是名村 商工観光課、農林水産課 いぜな島観光協会
今帰仁村	今帰仁村 経済課商工観光係、農政係 今帰仁村観光協会

<実施予定>

第1回 いいな調整会議 (8月下旬)	事業趣旨について、活動促進のあり方の調整 本年度の事業スケジュール、調整スケジュール
第2回 いいな調整会議 (11月中旬)	体験モニターやコミュニティビジネスの進捗共有 活動促進の支援事項確認（会則草案の作成など） 想定される課題に関する意見交換
第3回 いいな調整会議 (1月下旬)	体験モニターやコミュニティビジネスの進捗共有 活動促進の支援事項確認（会則の作成など） 今後課題に関する意見交換

<過年度の会議風景（いいな3村）>



2.2 広域交流拠点モデル体制の普及に向けた事例集の作成

○ 広域交流拠点体制のあり方及び具体的な組織化の方策について、広域交流拠点の本島地域モデルである「ヤンパク」及び離島地域モデル「いいな3村」の体制づくりのプロセスについてグリーン・ツーリズムに取り組む団体、実践者に紹介する事例集を作成する。

(1) 事例集の狙い

- ・県内の農山漁村地域においては、今後も高齢化や人口減少が他地域よりも顕著に進行する。このような背景のもと、他地域にとっても参考となり、実施のポイントや課題解決の理解促進につながるよう、拠点整備の取り組みを事例集として整理する。

(2) 事例集の概要

- ・これまでの実際の取り組みに対して、一般的に想定される拠点組織立ち上げのステップに分けて整理し、地域の事情に合わせて活用できるよう配慮する。
- ・特に、地理的に一体的な「本島モデル」と、遠隔の「離島モデル」では、連携のあり方や連携によるメリット、運営のあり方、連携体制立ち上げのあり方が大きく異なることから、地理的な特性にも着目し取組のポイントについて整理する。

<広域交流拠点組織の立ち上げステップ>

ステップ	到達点	実施事項
STEP 1	現状の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内資源の把握 ・地域のグリーンツーリズムの方向性 ・課題の把握、組織の必要性の共有 ・地域間相互理解
STEP 2	目的の合意	<ul style="list-style-type: none"> ・共通課題に対する対応の検討 ・ビジョン・目標の検討 ・取り組みプランの基礎検討
STEP 3-1	連携体制の立ち上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョン・目標の共有 ・取り組みプランの具体化 ・各村それぞれのスキル向上 ・運営資金の確保 ・連携組織・団体等の形態づくり
STEP 3-2 (※3-1 と同時進行)	事業の立ち上げ・試行	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画づくり ・連携・協働による実践活動 ・ブランドづくりの検討 ・商品・サービスの企画とブラッシュアップ

<事例集の構成(案)>

はじめに	・取り組みの趣旨、事業の経緯
対象地域の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・やんばる3村、いいな3村の紹介と、拠点として選定された理由。 ・地域特性・地域資源(立地、人口、農業従業者数、特産物、観光資源 など)
推進組織の紹介	・推進組織の紹介(主な業容・業態、組織・構成員など)
各地域おける取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・取組経緯と検討の流れ(広域交流拠点組織の立ち上げステップとの対応) ・段階ごとのポイントと展開上の留意点 ・地域間連携の推進上の課題とその対応
終わりに	・今後の課題など

3 事業実施フロー及びスケジュール



タスク	9月				10月				11月				12月				14/7月				2月				3月			
	1W	2W	3W	4W	1W	2W	3W	4W	1W	2W	3W	4W	1W	2W	3W	4W	1W	2W	3W	4W	1W	2W	3W	4W	1W	2W	3W	4W
1. いいな3村・ヤンバクにおける広域交流拠点体制の活動実証																												
1-1 体験交流プログラムの実証																												
①体験交流プログラムの品質向上にかかる勉強会																												
・勉強会の企画																												
・開催																												
②【再】体験交流プログラムのモニターアターの計画、実施																												
・企画準備																												
・モニターアターの実施																												
1-2 3村連携体制によるコミュニティビジネスの実証																												
①コミュニティビジネスの販売戦略に関する勉強会																												
・検討企画																												
・勉強会の実施																												
②【再】販売戦略会議の開催（3回程度）																												
・検討企画																												
・販売戦略会議																												
③【再】試作品の実証																												
・実証方法の企画																												
・事前調整																												
・実証の実施																												
1-3 広域連携組織の継続・展開に対する活動の促進																												
・調整会議																												
2. 広域交流拠点モデル体制の普及に向けた事例集の作成																												
2-1 構成の作成																												
2-2 素案作成																												
2-3 事例集の作りこみ																												
3. その他																												
3-1 報告書作成																												
3-2 打合せ・協議																												

具体的な取組事項（平成27年度 農山漁村交流拠点整備事業）

	<p>1. 体験交流プログラムの実証</p>	<p>2. コミュニティビジネス</p>	<p>3. 広域連携組織の継続・発展に対する活動促進</p>	<p>4. 広域交流拠点モデル体制の普及に向けた事例集の作成</p>
<p>いいな3村事務局側での推進事項（今帰仁村観光協会への委託）</p>	<p><モニターツアーの計画・実施></p> <p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニターツアーを通じた取組の熟度向上商品化の熟度を上げる。 <p>○実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年の検討した体験交流プログラムの実証。 ・30名（今帰仁-伊平屋：15名、今帰仁-伊是名：15名） ・東京発、県内発を半数ずつの想定 ・ターゲットをフリースクールに子供をもつ家族とする。（仮） <p>○実施時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月以降順次実施（受入側都合、実施方法も踏まえ要調整） <p>○その他（要件等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンセプト「家族の学校」を活かす。 ・持続的な販売が見込める商品（ターゲット設定、商品内容）とする。 	<p><3村連携コミュニティビジネスの実証></p> <p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過年度検討したコミュニティビジネスの熟度向上。試作・モニター検証。 <p>○実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泡盛、お結びの試作品の作成。 ・販売戦略会議3回の開催。 ・モニター調査の実施。 <p>○実施時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月以降順次実施（受入側都合、実施方法も踏まえ要調整） <p>○その他（要件等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンセプト「家族の学校」を活かす。 ・特にお結びについては、本年度の商業化ではなく、取組プロセスが地域に残るようあるべき論を踏まえた検討を行う。 	<p>—</p>	<p>—</p>
<p>取組事項全般（受託者側対応事項）</p>	<p><品質向上に係る勉強会></p> <p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験交流プログラムの品質向上 <p>○実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社から講師を招聘しての勉強会の実施（ツアー催行予定のKNTを想定） ・2回開催 <p>○参加対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験プログラムの企画・運営者関係 <p>○実施場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊平屋もしくは伊是名 <p>○実施時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証の実施前・実施後（→いつ） 	<p><販売戦略に関する勉強会></p> <p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売戦略立案の習得と、取組の分析検証、対策立案など <p>○実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強会の開催2回（実施前1回、実施後1回） ・プロモーションうるま中村黨統括マネージャーを招いた勉強会の開催。 <p>○参加対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3村メンバー、実施者 <p>○実施場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊平屋もしくは伊是名 <p>○実施時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証の実施前・実施後 ※ 	<p><広域連携組織の継続・展開に対する活動の促進></p> <p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いいな3村」の連携組織設立のサポート <p>○実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> →調整会議を3回程度開催することを予定 →その他、会の規約案作成など必要なサポートの実施 	<p><事例集を作成></p> <p>事業展開の振り返りに活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2階会議において素案を提示